

2001（平成13）年度 前期 京都大学 入試問題 文理共通 第1問 解答例

*解答欄の行数が現在の京大入試にまったく適しておらず、そのまま掲載しても受験生が学習する意義は低いので、解答欄の行数を改めた。これにより難度がアップする。

問一（五行→三行）

美術の全歴史において、先人による絵画の表現様式だけではなく、混沌とした視覚的映像世界に秩序を与え、対象を明確に認識する仕方までも後代に伝承されるという意味。

問二（五行→四行）

古代エジプト人たちの様式化された人間像は、技術が拙劣で不自然に見えるが、本当は、彼らが先人たちの作品を通して伝承された通りに人間を認識し、その認識に応じて大変忠実に描写をする表現様式によるとも考えうるから。

問三（五行→三行）

先人から後代へと継続する固定した様式は、伝統を形成する重要な要素ではあるが、それだけではまだ無意識的な伝承であり、それと意識されることで伝統となるという意味。

問四（五行→三行）

伝統ということばは、古くから伝えられてきたものが一つのモデルや手本として意識された時、また、それが失われたか、失われようという危機にある時にだけ用いられるから。

問五（五行のまま）

明治維新以来、新しい西欧的近代の輸入が急激な変化を招き、日本美術史では、明治十年代の後半頃から、極端な西欧化に対する反動が目立つようになった。明治二十年代には古いものが失われるかもしれないという危機的事態から生じた伝統の意識が急速に強まり、復古主義の時代を迎えた（と筆者は捉えている）。